

五行園の年間メンテナンスがどこよりも安い理由について。

一言でまとめてしまえば、**知識と技術**があるからです。例えば「サツキ」は五月に花を咲かせますでしょうか？剪定の時期を間違えると五月に花は咲きません。冬に花芽を切ってしまうと五月に花は咲かないのです。しかし、聞くところによると一年間庭木の手入れがおろそかになり年末に植木屋に手入れを頼んだところ、確かに庭木はサツパリし、庭のキレイを演出してくれたのですが、**二ヶ月が春になり、五月になり、毎年楽しみにしていた「サツキ」の花が咲かなかったという話。**確かに、このお客様は一年間まともに手をつけられずにいた庭を年始に向け、キレイにして欲しかったから年末に植木屋に頼んだ。言われたとおりに植木屋はキレイサツパリに庭を演出した。心機一転キレイサツパリなお正月を過ごせた。確かにこれは間違っていないと思います。

造園屋でも植木屋でもなく、庭屋である。

冬だろうが剪定すれば勿論キレイにはなりますよ。しかしここで言う「キレイサツパリ」は別次元の話。公共の樹木剪定の話です。日本には四季があるように各家庭それぞれの庭にも四季がある。なので年に一回、二回の樹木剪定では今挙げた例では庭に無理が生じてしまう。しかも一括して手入れをするので人手もかかるし時間もかかる。余計な木を切られたりもする。それに従い大きな金額もかかる。そこでこのような事例を無くすために五行園が提案する**「年間メンテナンス」**があり、その背景に一般の知識では及ばない、深い**知識と洗練された技術**がある。**知識**があるから安くできる。深い**知識**があるからこそ余計な事をしないのです。だから安い。**技術**はプロとして、あって当然の話ですよ。



**五行園** gogyoen  
 千葉県市原市八幡1451  
 年中無休 8:30 ~ 18:30  
 ☎ 0436-42-4212  
 📠 090-4177-7689 (相談受付)

プロフェッショナル特集

異端の庭師 五行園

プロフェッショナルな意識と新たな提案で庭屋の最先端に行く「五行園」。絶対的なリピート率のその知識と技術はまさに御庭のアート。

文・MIYA

庭屋と聞くと、敷居が高くて自分とは程遠い印象がある。もし何かの縁で依頼する場合は想像してみると、最初に心配するのがやはり金額の事である。依頼の電話をかけて日時を決め、実際に家まで来てもらい、そこでまず見積りしてもらおう。算出した金額に対して今更断るのも悪い気がして、しようがなくお願いしてしまうケースも思い起こせばあるかもしれない。そういった諸々の不透明な箇所をガラス張りに提案し、強い自信を持って営業している庭屋、五行園がある。

今回、リパブリック編集長が五行園の「管理統括部長」金子氏に話を伺う。



お客様と本音で付き合いたいですね。大事な財産を任せて頂く仕事なので、お客様と心を通わす為に毎月伺うんですよ。



リパブリック編集長と五行園金子部長による対談。

五行園の提案する年間メンテナンス

¥40,000 庭面積 20坪目安



- 毎月巡回致します。
- 巡回時に随時芝の管理！
- 一年中「美しい庭」を維持！

「庭屋」という視点から見る「造園」という美的感覚。

灯籠って良く見かけます  
 でしょう？最近では原型をモ  
 チーフに大量生産されている  
 灯籠を頻繁に目にします  
 が、実は灯籠って深い意味  
 を持ち合わせているんです  
 よ。その中から一つをお話  
 させて頂くと文字通り、灯  
 (あかり)籠(かご)であり、  
 つまり光が深く関わってい  
 るんですね。伝統的な石灯  
 籠の中には月と太陽のシン  
 ボルが刻まれているのがあ  
 り、蕪村の「月は東に日は  
 西に」を以ては「月が刻ま  
 れた灯籠は東に、太陽が刻  
 まれた灯籠は西に設置する  
 のが庭園文化の基礎という  
 か自然の摂理に準じた方法  
 です。現代のように照明技  
 術が発達していない時代の  
 人々は様々な工夫を凝らし  
 て月と太陽の灯りをこよなく  
 楽しんだのでしよう。そし  
 てその灯りを照らしながら  
 四季の移ろいに自然の壮大さ  
 、儚さ、ものあわれといった  
 日本独特の情緒や文化を  
 育んでいったのでしよう。

日本の庭園文化は世界から尊敬される

少し話が逸れますが、漱石  
 が「アイラブユー」という  
 言葉を「月が綺麗ですね」  
 と訳して生徒達にそれを育  
 む美しいロマンティズム  
 や情緒も当時の時代背景か  
 ら伝わってくる気がします。  
 日本の伝統的な文化、庭園  
 文化も勿論含まれますが、  
 本来、世界から尊敬される  
 べき大切な文化遺産です。  
 我々はその文化や伝統を大  
 切に残していきたいですね。  
 キャサリン・サンソム著の  
 『東京に暮らす』（岩波文庫）  
 で外国人から見た日本人に  
 ついて庭師の話も含め様々  
 な内容が書かれていますの  
 で、もしご興味があればお  
 読みになって下さい。  
 話を本題に戻しましょう。  
 「造園」の中でも一番身近な  
 存在なのは「芝」ですよ。ね。  
 我々の使わせて頂く芝は  
 一般的に販売されている芝  
 とは大分異なり、鮮度と寿  
 命が違います。勿論長寿に  
 させる知識と技術、そして  
 確実なメンテナンスがあつ  
 ての話ですよ。

芝の貼り方を教えてください

①まず、芝を張る前に土壌  
 改良させましょう。雑草な  
 どの草の根を取り、土の状  
 態を確認します。ねんど土  
 や山砂では芝は根を張らな  
 いので腐葉土やピートモス  
 等を使い、パーライトや透  
 水性に優れた黒土等を混合  
 させます。この土壌が無い  
 と芝の寿命は我々の経験上  
 およそ一年位しか持ちませ  
 んね。やはり下地処理は大  
 切なので、ここまでは焦ら  
 ず確実に進めましょう。  
 ②下地処理を終えたら芝を  
 敷きます。張り方はベタ張  
 り、目地張り、市松張り等  
 様々ありますが、我々は基  
 本的には目地張り方法にて  
 作業していきます。  
 ③敷き終えたら次は微調整  
 ですね。目土を使い芝と芝  
 の隙間を埋めたり全体の凹  
 凸を無くします。これで芝  
 貼りはほぼ完成。  
 ④ここからは先は管理です。  
 一番大事なのは水やりで  
 す。一平米の芝に対してお

五行園の芝貼りメンテナンス

¥ 2,500 1平米

- 鮮度と寿命が違うプロだけが使える芝をご用意させていただきます。
- 下地処理からアフターメンテナンスで年中美しい芝を管理！



五行園 gogyoen  
 千葉県市原市八幡 1451  
 年中無休 8:30 ~ 18:30  
 ☎ 0436-42-4212  
 📞 090-4177-7689 (相談受付)

プロフェッショナル特集

前号より続き

異端の庭師 五行園

前号インタビューで年間メンテナンスが大好評の五行園。  
 読者のご要望にお応えし、前号掲載できなかった庭師の視点から見る造園の話少々。

文・MIYA



リパブリック編集長と五行園金子部長による対談。

皆様は「造園」についてご存  
 じでしょうか。  
 前号では五行園の提案する年間  
 メンテナンスについてのお話を  
 伺いましたが、実は、まだまだ  
 その先のお話もありました。  
 「造園」  
 日常生活において何気なく耳に  
 する言葉ですが、この「造園」  
 とは具体的にどのような内容な  
 のでしょうか。  
 前号に引き続き、リパブリック  
 編集長と五行園【管理統括部長】  
 金子氏とのインタビュー内容を  
 掲載。  
 庭屋というプロフェッショナル  
 な視点から見た「造園」につい  
 ての意外な内容を頂いておりま  
 す。